



発行所  
日刊自動車新聞社  
東京都港区芝大門1丁目10番11号  
購読料 1カ月534円+税  
電話 東京(03)5777-2351代表  
©日刊自動車新聞社2021

3月19日  
(金曜日)

# サプライヤー 新世紀 2021

◆ 41 ◆

古河電気工業グループで自動車部品を手がける古河AS(滋賀県甲良町)は、軽量化をキーワードにワイヤーハーネスのアルミニウム化に注力している。今夏にはベトナムに新工場を立ち上げる計画だが、これまでアジアを中心に生産能力を増強するために先行投資してきた事業が収益刈り取りの時期に入ってくる。(村上 貴規)



古河AS  
阿部 茂信 社長

ベトナムやフィリピンでアルミ電線やワイヤーハーネスの生産能力を増強するための投資が、収益として刈り取れる時期に入っている。新規車種の中にはグローバルモデルもあり、生産数量などの面でも期待している。

「環境規制の強化や電動車の航続距離を伸ばすために軽量化アルミ製ハーネスが注目されている。さらにアルミ電線の腐食を防止する独自開発した端子も評価されている。今夏にはベトナム3拠点目となる組立工場の第1期工事が完了して設備が稼働する。現状の見通しでは25年度の売上げが20年度比2.5倍になる見通し。ワイヤーハーネス全体の売上げも年々拡大する中、アルミ製ハーネスの比率は5割以上を占める規模に成長すると見ている。採用車種も88車種まで増える見通しだ」

「現状、アルミ比率は約3割で、22年度にも比率を4割に高めたワイヤーハーネスの量産化を計画している。さらに25年度頃までにはアルミ比率5割の製品も実現するだろう。アルミは銅と比べて導電率が低いため、導体が太くなる。そのため、今は絶縁部を薄くするなどして、アルミ比率5割の実現に向けて設計・開発に取り組んでいる」

「ベトナムの新工場ではBCP(事業継続計画)対策として戦略的なスペースを設ける」

「EVやFCV向け製品の開発と供給に加え(工場などの事業所)でできるだけ太陽光や地熱など再生可能エネルギーを活用することを検討している」

## ワイヤーハーネスのアルミニウム化を推進

「プロフィル」あべ・しげのぶ 上智大学外国語学部卒。1985年古河電気工業入社。自動車部品事業部門で海外子会社社長などを経て、2016年執行役員・自動車部品事業部門副事業部門長、20年4月執行役員常務・自動車部品事業部門長。19年4月から古河AS社長を兼務。1961年9月生まれ、59歳。福井県出身。

日刊自動車新聞社が記事利用を許諾しています。